

「支え合い」

福岡市立壱岐中学校

光安 美祐子

「税金」と言われると「高齢の方のため」「大人が払うもの」など自分とは遠いイメージを勝手に持っていた。しかし、税金について知っていくにつれて、私たちもたくさん税金にお世話になっていたということに気がついた。

今年の春、私は足の手術で入院した。入院する前も、たまに検査を受けに行くことがあり、その時母が「入院は中学生まで自己負担がないとよ。」と教えてくれたことを思い出した。調べてみると、福岡市には「子ども医療費助成制度」という安心して病院などを受診するために、医療費を助成するという制度があるらしい。私も病気になった時、このおかげで安心して受診し、健康に暮らすことができているのだと感じた。

更に、日本には「国民皆保険制度」というものがあり、それを維持するため、そこにも国庫負担つまり国の税金が投入されているようだ。税金に支えられて、私たちは健康で豊かな暮らしを送ることができているのだ。

税金が使われているのは医療だけではない。教科書をはじめ私たちの教育費や、ごみの回収、公共の施設の維持費、今年は新型コロナウイルスによる給付金など、私の身の回りでたくさんの税金が活かされている。そんな私たちに必要な税金は、一生懸命働いて納めてくれる方たちがいて成り立っている。そんな、どこかの名前も知らないヒーローに支えられて、今の幸せな生活を送ることが出来ているのだ。私たちは、学校に行くにも病院で診てもらうにも、感謝しなければいけないと感じた。そして将来、今度は私たちが支えていかなければいけない。そうして誰かの役に立つことができるのなら、私は誇りに思う。そのために、私は今学校でしっかりと学ぼうと思った。

そんな私たちを支えてくれる税金。それは決して、遠い存在のものではなく、私たちの生活を豊かに、幸せにしてくれるとても身近なものだった。そして、税金は支え合いの精神によって成り立っていると感じた。現在のように、新型コロナウイルスの影響で人と気軽に会うことができない状況でも、自分が買い物をするときに納めた消費税が、どこかの誰かをほんの少しでも幸せにしているのならば、とても嬉しい。そして、これまで私がお世話になった分、社会に恩返しをして、次は私たちが誰かを支えるヒーローになりたいと思った。